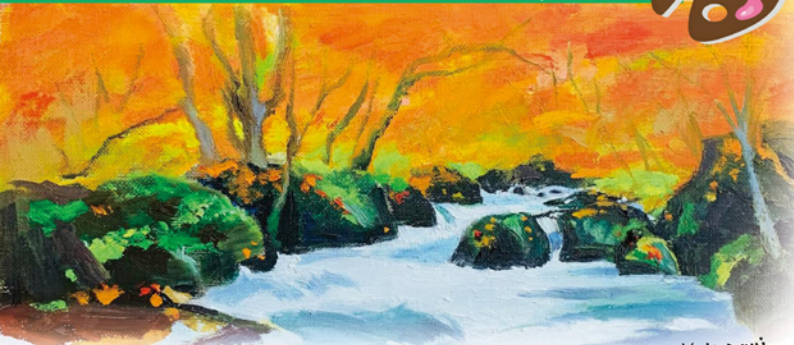


1.奥入瀬エリア

Lake Towada and Oirase Sketch Map



奥入瀬溪流の特徴・魅力と価値

奥入瀬溪流の魅力を生み出しているのは安定した水量と穏やかな流れです。氾濫することの少ない奥入瀬溪流では、点在する多くの岩や溪流沿いの木々に苔が生育し、他の溪流では見ることのできない緑色の景観を生み出します。また、遊歩道もすべて渓谷林の中に整備されています。流れと歩道がほぼ同じ高さにあるため溪流に親しめるのも、水量の安定によって実現できている魅力のひとつです。

② 九段の滝

九段の滝は、その名の通り段々になっている岩の上を、水が滑り落ちるように流れています。水量はあまり多くありませんが、落差15mの滝の間近まで歩道が整備されており、自撮りにもオススメのスポットです。



③ 白布の滝

豊富な水量が、まさに一本の白い布のように流れ落ちる美しい滝です。



④ 平成の流れ

平成11年(1999年)、大規模な地滑りによって滝状の大きな落差が生じ、白波を豪快に立てる新たな流れが生まれました。遊歩道沿いでは、地滑り後に新たに生育してきた若い植生と、周囲の古い植生との違いも見どころです。



自転車で快適サイクリング

溪流の爽やかなローケーションを自転車で颯と駆け抜ける気持ちよさを体験してみませんか?電動アシスト付自転車なら、登り坂もらくらく!行動範囲も広がるのでお楽しみも増えますよ。

- 貸出返却場所(全3ヶ所) ①奥入瀬溪流館 ②石ヶ戸休憩所 ③JR/バス東北子ノ口駅(JR/ハウス子ノ口)
- 営業時間 8:30~16:30
- レンタル料 基本料金 電動アシスト付自転車(3段)/4時間1,500円 シティサイクル(6段)/4時間1,000円 追加料金/延長30分ごとに300円(1台)
- お問い合わせ / 奥入瀬溪流館 TEL 0176-74-1233



⑩ 松見の滝

「日本の滝百選」に選定されている八甲田唯一の名瀑。しかし、現地までは徒歩で往復6時間の距離で登山装備が必要です……。落石や転落の危険性もありますのでご注意ください。

⑥ 三乱の流れ

ひとつの流れが三つに分かれることから「三」「乱れ」の流れと名付けられたそうです。豊かな水量ですが激しさはなく、自然の生み出す多彩な表情が見られます。岩の上に植物が生えている様子など、奥入瀬溪流の特徴がわかりやすいポイントです。

⑦ 奥入瀬湧水館

大自然の息づかいをたっぷり含んだ「奥入瀬湧流水」を製造している施設で、ガラス越しに製造の様子を見学することもできます。2階には軽食・カフェスペースもあります。

奥入瀬ハイパス

奥入瀬ハイパスから子ノ口につながる新バイパス(青楓山バイパス)を現在建設中です。完成すれば、車両通行による奥入瀬溪流内の動植物への悪影響が緩和されます。

増水しにくい理由

十和田湖が巨大な「天然のダム」の役割を果たし、大雨が降っても湖で受け止めることができるので、溪流への出水量が抑えられています。さらに、奥入瀬溪流のなだらかな勾配も、水量が安定する要因のひとつです。

こけ玉づくり体験

奥入瀬溪流の美しさの源とも言える「こけ」。その「こけ」を丸めて「小さな奥入瀬」を自分の手で表現してみませんか。お一人からお申込みも可能で体験時間は30分程度。料金は、お一人様2,000円。

■ お問い合わせ / 奥入瀬モスボール工房本店 (奥入瀬溪流館内)

TEL 0176-74-1233 <http://www.mossball.jp/>



⑧ 奥入瀬溪流館

奥入瀬溪流への入り口、焼山エリアに位置する奥入瀬溪流館は、奥入瀬溪流に関する資料の展示、お土産・土産の販売を行っている他、こけ玉づくりが体験できる「奥入瀬モスボール工房」や、溪流の散策に便利なレンタサイクルもあります。おすすめは「奥入瀬湧流水」で淹れたこだわりのコーヒー、そして話題の「こけソフト」! 休憩スペースもごさいますので、是非お立ち寄りください。

十和田湖

遊覧船発着所・発着所



① 銚子大滝

奥入瀬溪流本流にかかる唯一の滝です。高さ7m、幅20mの堂々たる滝から流れ落ちる水は多量の水霧をうみ、木漏れ日がそこに幾本もの光の筋をつくります。この立派な滝のため、奥入瀬溪流を遡上してくる魚が十和田湖までたどり着けないことから「魚止めの滝」とも呼ばれています。

⑤ 雲井の滝

奥入瀬溪流本流から「雲井の流れ」あたりまでのエリアで、「三乱の流れ」、「石ヶ戸の滝」、「阿修羅の流れ」、「雲井の滝」、「白銀の流れ」など、奥入瀬の景勝ポイントが目白押しです。また、石ヶ戸の下流側と白銀の流れの右岸側には特に美しい森が広がっており、深流美を満喫したい方におすすめのエリアです。

⑤ 雲井の滝

高さ20mから豊富な水量で流れ落ちる、奥入瀬溪流のなかでも見応えのある滝のひとつで、岩に当たる水しぶきが雲のように見えることから、この名前がついたといわれています。溪流沿いの道がずいぶん奥まったところがありますが、滝のほぼ真下まで歩いて行けるので、その迫力を間近に感じることができます。

⑩ 石ヶ戸

「ケド」とは秋田のマタギ言葉で「小屋」という意味。幅10m、厚さ1mの巨大な一枚岩がカツラの木にもたれかかるようにして、まさに自然にできた岩の小屋をつくっています。ここには昔、女盗賊が住んで旅人を襲っていたとの伝説も。

散策プラン

■ 上流域

「雲井の流れ」付近から、溪流の始まりである十和田湖(子ノ口)までのエリアで、両岸から新産が迫るため、深谷のイメージがやや強く感じられます。「玉簾の滝」を皮切りに海が連続して現れるため、「瀑布街道」とも呼ばれます。奥入瀬の滝のほとんどがこのエリアに集中しているため、多彩な奥入瀬の滝を楽しみたい方におすすめです。

■ 中流域

奥入瀬ハイパス入口から「雲井の流れ」あたりまでのエリアで、「三乱の流れ」、「石ヶ戸の滝」、「阿修羅の流れ」、「雲井の滝」、「白銀の流れ」など、奥入瀬の景勝ポイントが目白押しです。また、石ヶ戸の下流側と白銀の流れの右岸側には特に美しい森が広がっており、深流美を満喫したい方におすすめのエリアです。

■ 下流域

焼山から奥入瀬ハイパス入口までのエリアです。上中流域と比べると川幅が広く、深流景観としてはやや単調なもの、惣辺及び黄瀬に見られるフナやトチノキの森は美しく、静かな奥入瀬の森の雰囲気を楽しみたい方におすすめのエリアです。

